

平成27年（2015）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、63万5,400人
対前年（H26）同月比 +6万9,800人、+12.3%
～外国客が単月の過去最高を更新、初の10万人台～

入域状況

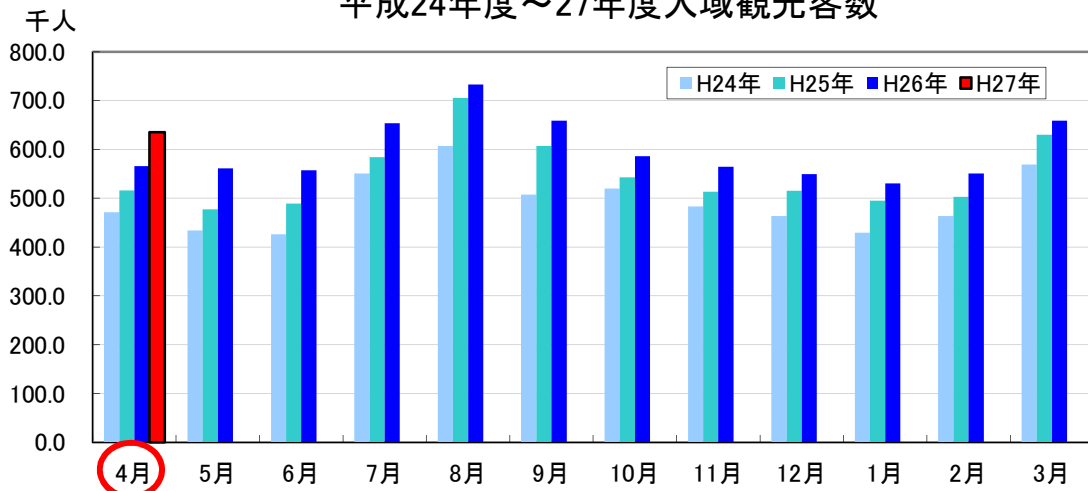
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	504,800 人	491,700 人	+ 13,100人	+ 2.7%	79.4%
外国客	130,600 人	73,900 人	+ 56,700人	+ 76.7%	20.6%
合計	635,400 人	565,600 人	+ 69,800人	+ 12.3%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	504,800 人	491,700 人	+ 13,100人	+ 2.7%	81.9%
外国客	111,200 人	63,100 人	+ 48,100人	+ 76.2%	18.1%
合計	616,000 人	554,800 人	+ 61,200人	+ 11.0%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、東京、関西、福岡方面を中心に好調に推移し、LCCを中心とした航空路線の拡充や、名古屋路線初のLCC新規就航等もあり、前年度を上回った。

5月は、台風6号の影響で欠航等があったものの、日並びの良かった連休後半の旅行商品の販売が好調だったことや、修学旅行が増加するシーズンでもあり、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

4月は、台湾、韓国、中国、香港において、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路ともに好調に推移し、単月の過去最高記録を更新した。特に韓国と中国の伸びが顕著であった。

5月も、前年同月に比べて航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加する見込みとなっていることから空路・海路ともに増加が期待されており、順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	236,900 人	231,700 人	+ 5,200人	+ 2.2%	46.9%
関西方面	111,400 人	104,600 人	+ 6,800人	+ 6.5%	22.1%
福岡方面	60,300 人	54,900 人	+ 5,400人	+ 9.8%	11.9%
名古屋	41,900 人	42,200 人	△ 300人	△ 0.7%	8.3%
その他	54,300 人	58,300 人	△ 4,000人	△ 6.9%	10.8%
合計	504,800 人	491,700 人	+ 13,100人	+ 2.7%	100.0%

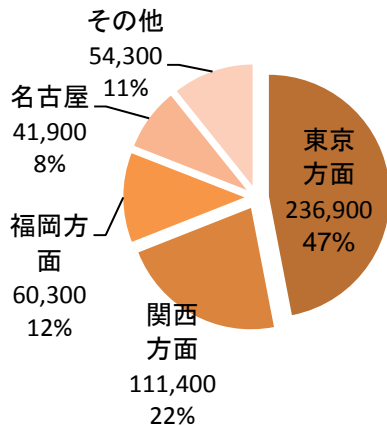
※国内海路客2,500人を含む(鹿児島1,800人、関西100人、横浜600人)

外国客 国籍別入域状況

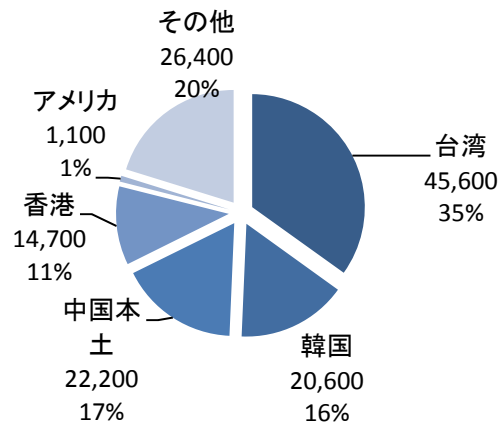
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	45,600 人	45,600 人	30,700 人	+ 14,900人	+48.5%	34.9%
韓国	20,600 人	20,600 人	9,800 人	+ 10,800人	+110.2%	15.8%
中国本土	22,200 人	22,200 人	5,600 人	+ 16,600人	+296.4%	17.0%
香港	14,700 人	14,700 人	10,700 人	+ 4,000人	+37.4%	11.3%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	2,200 人	△ 1,100人	△50.0%	0.8%
その他	26,400 人	7,000 人	14,900 人	+ 11,500人	+77.2%	20.2%
合計	130,600 人	111,200 人	73,900 人	+ 56,700人	+76.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	26,500 人	26,500 人	+33.8%	32.2%	19,100 人	19,100 人	+75.2%	39.5%
韓国	20,600 人	20,600 人	+110.2%	25.0%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	15,300 人	15,300 人	+173.2%	18.6%	6,900 人	6,900 人	皆増	14.3%
香港	14,500 人	14,500 人	+35.5%	17.6%	200 人	200 人	皆増	0.4%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+42.9%	1.2%	100 人	100 人	△93.3%	0.2%
その他	4,400 人	4,300 人	+22.2%	5.3%	22,000 人	2,700 人	+94.7%	45.5%
合計	82,300 人	82,200 人	+63.9%	100.0%	48,300 人	29,000 人	+103.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、成田路線からの入込は減少したものの、羽田路線は好調に推移し、前年同月に比べて増加し、前年度を上回った。

5月は、台風6号の影響で欠航等があったものの、日並びの良かった連休後半の旅行商品の販売が好調だったことや、羽田を中心とした航空路線の拡充等により、好調に推移する見込み。

大阪

4月は、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便等により、関西空港を中心に入込が順調に増加し、前年度を上回った。

5月以降は、連休及び5月後半までの旅行商品が好調となっていること、6月からANAの関西－宮古路線の再開による離島方面の増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

福岡

4月は、2月からのスカイマークの福岡－那覇路線の減便が終了し、前年同月に比べて全体の提供座席数が増加したこと等により、前年度を上回った。

5月は、連休のパッケージ旅行が好調となっていること、ANAの福岡－石垣路線の運航再開による離島方面の増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

名古屋

4月は、名古屋路線初のLCCとしてジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線が新規就航したものの、2月からのスカイマークの減便の影響等から、前年度を下回った。

5月以降は、連休を中心に宮古島へのチャーターツアーが行われたことや、各旅行社の旅行商品が好調であること、7月からANAの名古屋－那覇路線の増便が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

台湾

4月は、各航空会社の航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、空路・海路ともに増加し、前年度を上回った。

5月以降も、クルーズ船の前年度を上回る寄港回数の見通しや、航空路線の拡充も予定されており、夏場に向けて空路・海路ともに順調に増加する見込み。

韓国

4月は、旅客船沈没事故から1年の旅行自粛ムードが懸念されたが、前年同月に比べて航空路線が大幅に拡充した影響等により、前年度に比べて倍増した。

5月は、2つの連休の旅行商品の販売状況が好調となっていること、4年ぶりの濟州島－那覇間のチャーター便やチャータークルーズの予約が好調なこと等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

4月は、前年同月に比べて天津航空の天津－那覇路線や定期チャーター（西安－那覇）等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。

5月以降は、5月（労働節）や6月（端午節）の連休による旅行需要の高まりや、航空路線の拡充による空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

4月は、前年同月に比べて中国東方航空の上海－那覇路線の増便や定期チャーター（杭州－那覇）等による航空路線の拡充から空路客が増加したことや、上海発クルーズ船の寄港による海路客の増加により、前年度を上回った。

5月以降は、6月から上海吉祥航空の上海－那覇路線の増便等により、航空路線が拡充することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。

香港

4月は、4月前半の連休による旅行需要や、香港ドラゴン航空の香港－那覇路線の増便等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。

5月以降は、夏場に向けた旅行商品の充実や、航空路線の拡充による好影響が継続することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。